

《横浜市感染症臨時情報》

成人男性を中心に風しんが流行しています

【概況】

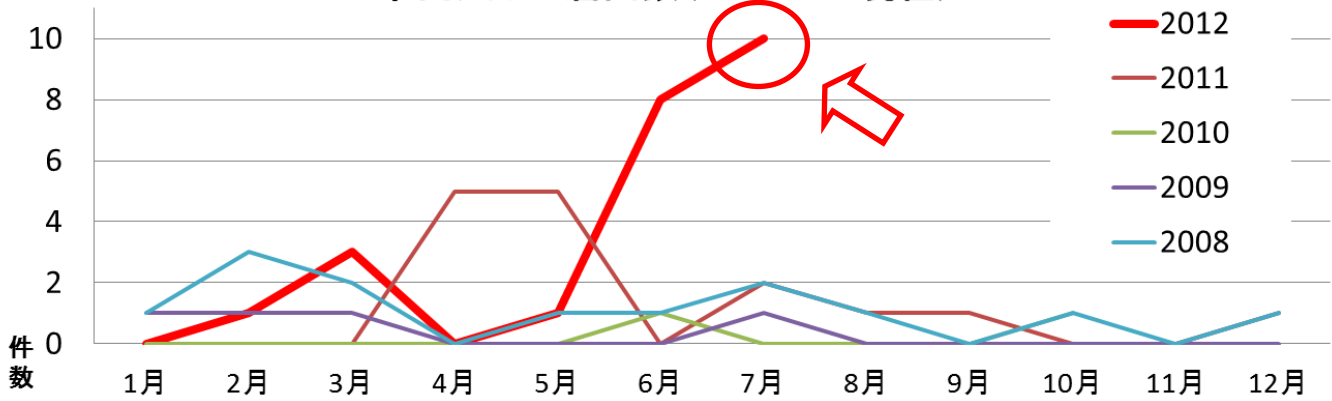
横浜市内における風しん^{※1}の届出が6月以降急増しており、今年7月19日現在で既に昨年1年間の約1.5倍(23件)となっています。流行の中心は予防接種歴が無い、あるいは不明の30~40歳代の男性ですが、10歳代、20歳代でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が、妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群^{※2}の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

※1 風しんについて <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/rubella1.html>

※2 先天性風しん症候群について <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/crs1.html>

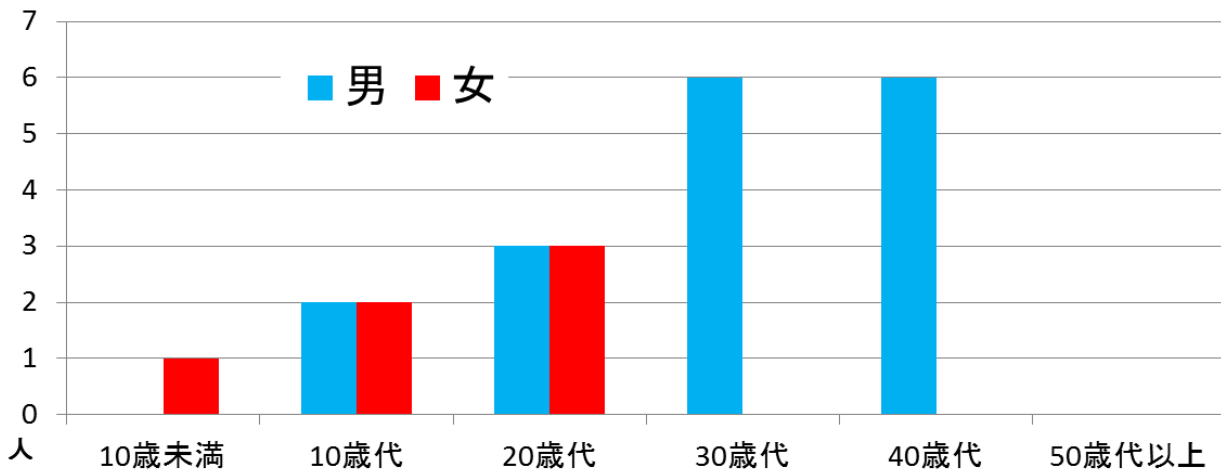
1 市内流行状況:6月以降急増し、7月19日現在で23件と最近5年間で既に最も多くなっています。

市内風しん届出数(2012.7.19現在)



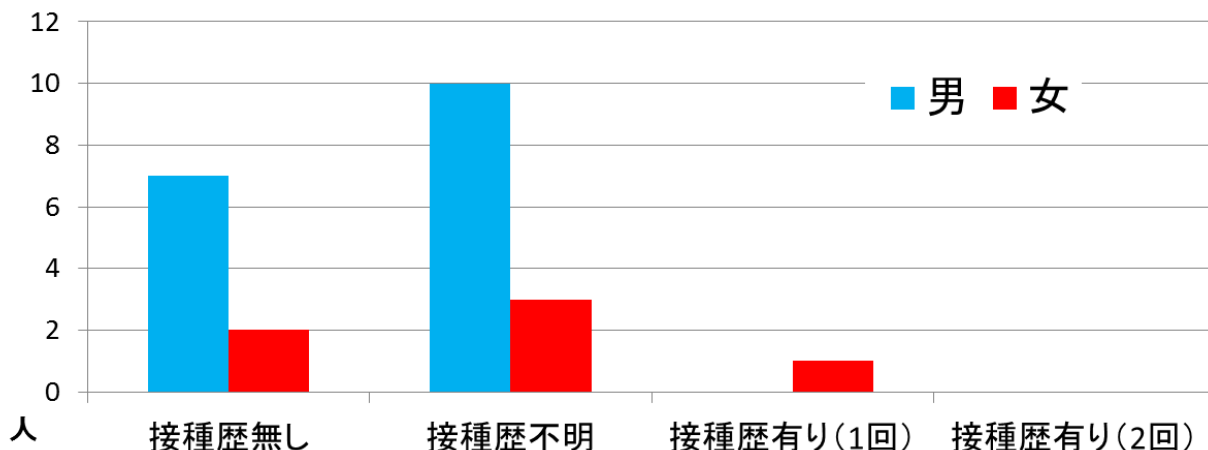
* 今後も流行が続く可能性があります。

2 届出患者の性・年齢別状況:届出全体の内、男性が73.9%(17件)と多くを占めています。また、男性の30~40歳代で最も多く、さらに10歳代、20歳代でも報告されています。



女子のみが定期予防接種の対象とされていた世代

3 予防接種の接種状況: 予防接種歴(1回)が確認されたのは女性1名のみで、他はすべて予防接種歴が無いか、不明でした。



4 風しんの予防接種について

○定期予防接種(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。標準的な接種期間は以下のとおりです。

- 1期: 1歳以上2歳未満
- 2期: 5歳から7歳未満で小学校就学前1年間
- 3期: 13歳となる日の属する年度(中学1年生相当)
- 4期: 18歳となる日の属する年度(高校3年生相当)

麻しんは感染力が強く、重症になります。麻しん撲滅のためにもMRワクチンで受けましょう!

(3期及び4期は、既接種1回のみの方を対象とした平成25年3月31日までの時限的措置です。)

○任意予防接種

・風しんの定期予防接種は昭和52年から開始されましたが、当時は対象が中学生の女子のみであったため、現在30歳代後半以上となる男性は定期予防接種の機会がありませんでした。また、平成6年に予防接種法が改正された際、男女ともに接種対象になりましたが、現在の20歳代から30歳代前半の男性の接種率は低く、これらのことが現在の流行に影響していると考えられます。妊娠中の女性が風しんに感染し、生まれてくるお子さんが先天性風しん症候群になることを防ぐため、周囲の大人(特に男性)が予防接種を受けることが大切です(任意予防接種となります)。

・自分と家族、周りの人々を風しんから守るためにも、風しんの予防接種を受けましょう。また、麻しんの免疫を確実にする効果もありますので、麻しん・風しん混合ワクチン(MR ワクチン)での接種をお勧めします。

・妊婦が風しんの予防接種を受けることはできません。ワクチン接種後は2か月間の避妊が必要です。

5 その他風しんについて

風しん Q&A(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しん患者の地域的な増加について(厚生労働省事務連絡)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou21/dl/120525a.pdf>

横浜市感染症情報センター

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

国立感染症研究所感染症情報センター

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463

TEL 045(754)9816